

国際医療福祉大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価結果

(2026年6月17日教務統括委員会、2026年6月18日自己点検・自己評価委員会 報告)

(リテラシーレベルプログラム概要)

本学は、2023年度から全学的に「国際医療福祉大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」（以下「本プログラム」という。）を開講し、数理・データサイエンス・AI教育の充実を図っています。本プログラムでは、統計学と情報工学を融合した教育を実施し、数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、それらを適切に理解し、活用する基礎的な能力を備えた優れた人材を育成することを目的とします。本目的を達成するため、社会的需要や動向を把握し、その内容をプログラムに反映させるべく、学生および産業界からの意見を踏まえた自己点検・評価を実施しています。

※本プログラムは、2024年8月に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」において、文部科学大臣の認定を受けています（認定期限：2029年3月31日まで）。

なお、自己点検・評価項目については、当該認定制度における申請項目に準じて設定しています。

(自己点検・評価内容) 【対象期間:2025年4月1日～2026年3月31日】

自己点検・評価項目		実施内容	評価																	
学内からの視点	プログラムの履修・修得状況	本プログラムは、11学部27学科において開講している。2023年度以降の履修者数の累計は6,655名、修了者数の累計は6,085名、修了率は91%（前年度比+1pt）となっている。学年進行に伴い高学年で授業科目が配当されているプログラム履修者が順次修了したことに加え、カリキュラム改定による授業科目の配当学年の見直し、修了率上昇の背景にあると考えられる。また、全体の履修率は71%（前年度比+24pt）となり、在学生の約7割が学修を開始している。 以上のとおり、修了率および履修率はいずれも増加傾向にあることから、本項目に対する取組は適切なものであると判断する。	A																	
	学修成果	本プログラムの修了認定は、「データリテラシー」および「医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報（以下「医療必修」とする。）」の両科目の単位修得を要件として行っている。2025年度に開講した各科目の成績評価の分布は、以下の図に示すとおりである。 2025年度 成績分布（リテラシーレベル） <table><thead><tr><th></th><th>S評価</th><th>A評価</th><th>B評価</th><th>C評価</th><th>D評価</th></tr></thead><tbody><tr><td>データリテラシー</td><td>48%</td><td>30%</td><td>13%</td><td>8%</td><td>1%</td></tr><tr><td>医療必修</td><td>54%</td><td>29%</td><td>11%</td><td>5%</td><td>2%</td></tr></tbody></table> いずれの科目においてもS評価の割合が最も高く、A評価を含めると約8割の履修者が良好な成績を収めて単位を修得している。また、D評価の割合はいずれも2%以下にとどまり、不合格者は少数である。一方、S評価およびA評価を合わせた割合については、データリテラシーが78%（前年度比▲1pt）、医療必修が83%（同▲5pt）と、いずれの科目においても前年度からの減少が見られた。このことから、学修内容等については、今後も継続的な検証が必要であると考えられる。 これらの結果を総合的に判断すると、リテラシーレベルの構成科目については、成績評価の妥当性が確保されており、学修難易度も適切に設定された上で、概ね安定した授業運営が行われているといえる。以上を踏まえ、本項目に関しては、一定の課題は認められるものの、総じて十分な水準および成果が得られていると評価する。		S評価	A評価	B評価	C評価	D評価	データリテラシー	48%	30%	13%	8%	1%	医療必修	54%	29%	11%	5%	2%
	S評価	A評価	B評価	C評価	D評価															
データリテラシー	48%	30%	13%	8%	1%															
医療必修	54%	29%	11%	5%	2%															

（自己点検・評価内容）

【対象期間:2025年4月1日～2026年3月31日】

自己点検・評価項目		実施内容	評価
学内からの視点 (続き)	学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	データリテラシー科目では、履修前後に全25問からなる理解度確認アンケートを実施している。履修前における「できる」と回答した割合の平均が36%であったのに対し、履修後には84%に達しており、授業を通じて学生の理解度が大きく向上していることが確認された。項目別に見ると、質問1～14の「Excelの基本操作」に関する項目では、履修前は一部の質問で「できる」の割合が2割以下にとどまっていたが、履修後にはすべての質問で7割以上となり、基礎能力の定着が見られた。また、質問15以降の「データ分析」に関する項目では、履修前はいずれの質問においても「できる」の割合が3割以下であったが、履修後には多くの質問で30～70ポイントの向上が見られるなど、理解度の顕著な向上が確認された。一方、「24.アンケート調査結果についてクロス集計ができる」および「25.正規分布と標準正規分布の違いについて説明できる」は、履修後も「できる」の割合が5割未満にとどまっている。これらの項目については、理解度の一層の向上を図るため、今後も教育方法等について継続的な検証が必要であると考えられる。 以上を踏まえ、本項目に関しては、継続的な課題は残るものの、一定の成果が得られたと評価する。	B
	学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	学年末にプログラム履修者を対象として、後輩等他の学生への教育プログラムの推奨度を確認するアンケートを実施している。今年度はアンケートの選択肢を見直した結果、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた割合は83%（前年度比+24pt）であった。教育プログラムを他の学生に推奨したいとする回答が8割強を占めており、多くの学生が本プログラムを高く評価していることがうかがえる。 以上を踏まえ、本項目に関しては一定の成果が得られたと判断する。	B
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	リテラシーレベルの構成科目については、すべて必修科目として配置し、全学生が確実に履修できる体制を整備している。このことから、本項目に対する本学の取組は適切なものであると判断する。	A
学外からの視点	教育プログラム修了者の進路、 活躍状況、企業等の評価	本プログラムは2023年度に開始したため、現時点では修了生はすべて在学中の学生である。2027年度に第1期修了生が卒業予定であることから、2028年度以降にアンケート等を通じて、修了生の活躍状況や企業等からの評価を把握する予定である。	N
	産業界からの視点を含めた教育 プログラム内容・手法等への意見	公益財団法人とデータ提供に関する協定を締結し、そのデータを関連科目の演習教材として利用している。あわせて、毎年、自己点検・自己評価委員会において学外委員から意見を聴取し、その内容を数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討WG（以下「検討WG」とする。）にて共有している。さらに、2024年度から医療福祉分野データサイエンス教育ワークショップを主催し、学内外の参加者から幅広く意見を収集している。今年度は第2回目の開催となり、学内外から約70名の参加があった。 以上の取組により、外部の視点を含めた意見を収集する体制の強化が進むとともに、それらの意見を授業科目の見直し等に活用する体制も整いつつあることから、本項目に関しては一定の成果が得られたと判断する。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させる取組等		本学では、学期末に全授業科目を対象とした授業アンケートを実施し、学生による教育内容の満足度を把握している。本アンケートでは「授業の総合的な満足度」を確認しており、リテラシーレベルの構成科目である「データリテラシー」および「医療必修」においては、いずれも「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせた割合が80%を超えており、学生にとって満足度の高い授業であることがうかがえる。また、学年末にはプログラム履修者を対象に学修の必要性に関するアンケートを実施している。本アンケートでは「どのレベルの学修まで必要と思うか」を確認しており、リテラシーレベルまでを必要とする回答の割合が61%、応用基礎レベルまでを必要とする回答の割合が27%であった。これらの結果を踏まえると、数理・データサイエンス・AI教育について、88%の学生が学修の必要性を認識していることがうかがえる。 以上より、本項目に対する取組として、本学の教育プログラムは一定の水準に達していると判断する。	B
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とする取組等		検討WGにおいて、キャンパスの枠を超えた教員間の意見交換や、授業教材、シラバス、アンケート集計結果等の共有を行っている。これらの取組を通じて、学生にとってより分かりやすい授業の実現を目指し、授業内容および教育方法の継続的な点検・改善を実施している。	B

（評価基準） A：十分な水準・成果がある、B：ある程度の水準・成果がある、C：改善が必要である、N：現時点では判断できない

作成：数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討ワーキンググループ

リテラシーレベルプログラムの履修・修得状況

(2025年度時点)

学部・学科名称	収容定員	2023年度		2024年度		2025年度		履修者数 合計	履修率	修了者数 合計	修了率
		履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数				
保健医療学部	2,220	551	453	542	456	659	571	1,752	79%	1,480	84%
医療福祉学部	570	134	132	113	102	124	115	371	65%	349	94%
薬学部	1,080	189	184	179	172	194	185	562	52%	541	96%
赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	480	121	115	115	102	128	120	364	76%	337	93%
医学部	840	142	115	144	151	148	144	434	52%	410	94%
成田看護学部	400	102	98	104	105	109	105	315	79%	308	98%
成田保健医療学部	1,160	307	301	303	302	310	299	920	79%	902	98%
成田薬学部	240			121	120	140	139	261	109%	259	99%
小田原保健医療学部	800	217	216	206	206	221	212	644	81%	634	98%
福岡保健医療学部	880	229	223	212	202	209	195	650	74%	620	95%
福岡薬学部	720	123	0	127	119	132	126	382	53%	245	64%
合 計	9,390	2,115	1,837	2,166	2,037	2,374	2,211	6,655	71%	6,085	91%

※履修者数は、当該年度に初めてプログラム構成科目を1科目以上履修した人数を記載

※修了者数は、当該年度に全てのプログラム構成科目の単位を取得した人数を記載

本プログラムを通じた学生の内容理解度の調査

(2025年度履修者対象)

設問	A. 履修前	B. 履修後	B - A
	できる	できる	
1. コピー・貼り付けができる	85%	100%	14%
2. アルファベットの大文字と小文字を区別して入力できる	99%	100%	0%
3. 文字の半角と全角を区別して入力できる	93%	99%	6%
4. 文字の書式（フォント、サイズ）を変更できる	61%	99%	38%
5. 1ページの文字数と行数を設定できる	33%	87%	54%
6. 文章の行間の変更ができる	64%	93%	29%
7. インデントの指定ができる	9%	71%	62%
8. ページ番号を挿入できる	17%	79%	62%
9. 4行3列の表を作成できる	31%	96%	65%
10. 表のレイアウト（列幅や行の高さの変更、セルの結合や分割等）を変更できる	32%	96%	63%
11. 文章中に図または写真を挿入できる	73%	99%	25%
12. ファイル名を指定して文章を保存できる	63%	97%	34%
13. 表のデータについて、表示形式（セルの書式）を変更できる	20%	84%	64%
14. 行や列の削除や挿入ができる	54%	96%	42%
15. 表のデータについて、関数を利用して合計を計算できる	20%	93%	73%
16. 表のデータについて、割合を計算し、パーセント表示できる	18%	92%	74%
17. 表のデータをもとに棒グラフを作成できる	30%	96%	67%
18. 棒グラフと折れ線グラフからなる複合グラフを作成できる	17%	81%	64%
19. 条件付き書式を設定できる	6%	73%	67%
20. 相対参照と絶対参照の使い分けができる	4%	52%	48%
21. データの並べ替えと抽出ができる	12%	79%	67%
22. 度数分布表、ヒストグラム、箱ひげ図を作成し、その意味を説明できる	25%	80%	55%
23. 散布図を作成し、その意味を説明できる	20%	76%	57%
24. アンケート調査結果についてクロス集計ができる	4%	36%	32%
25. 正規分布と標準正規分布の違いについて説明できる	12%	42%	30%
平 均	36%	84%	48%

後輩等他の学生への推奨度に関する調査

(2025年度履修者対象)



学修の必要性に関する調査

(2025年度履修者対象)

